

私は、この夏の書道コンクール「中学生の税についての書写」に応募するにあたって、「納税準備預金」という課題を選んだ。この字を書いてみたい、という単純な思いで書き始めたが、筆を持ちながら、ふと考えた。納税準備金って、どういうものだろう。

納税準備預金とは、国税や地方税の納付に充てることを目的として、金融機関に預けるお金のことだそう。納税する時に資金がないと慌てないために、別に口座を設けて預けておくことで、利子が非課税になったりするメリットに加え、安心して納税することができる仕組みだ。現在は、この制度を廃止している金融機関があるので注意が必要だが、考え方として、納税のためのお金を別に確保しておくことはとても大切なことだと思う。書道を通じて、また一つ、大切なことを覚えることができた。

親から自立して、社会人として生きていくことになった時、私達は納税の義務が生まれる。納税は国民の三大義務の一つだから、当然のことだ。私達が安心して暮らせるのは、警察や消防の存在があるからであり、水道や道路などが誰でも公平に使用できるのも、国民から集めた税金があるからこそだ。また、私達が教育や医療を差別なく受けられたり、老いた時には介護サービスに支えもらえるのも税金のお陰なのである。身近なことでは、今年の四月から萩市の中学生は給食費が無償になった。中学生は塾や部活でお金がかかる時なので、とてもありがたい制度だと思う。そして、ここにも税金が充てられていることに、私達はもっともっと感謝しなければならない。

税金とは、「社会の会費」であると聞いたことがある。とても納得のいく言い換えだ。社内の一員として生きていくなれば、会費を払うのは当然であり、支払期限を守らなかつたり、払おうとしないことは、社会全体に対する迷惑なのだ。会費も払わずに日々を安心して暮らそうなんて、虫のよすぎる話である。社会人ならば、社会に迷惑をかけてはならない。

私は将来、自分が税金を払う側になった時、お金を気持ちよく納め、そしてすっきりとした気持ちで生きていける自分でありたいと思う。そのためにも、自分なりの納税準備預金は抜かりなくしておこう。また、十分に理解した上で納税をするために、税についてもっと知識を深めたいと思う。税金は「取られるもの」ではなく、「納めて当然のもの」と自分が心から思えるよう、社会の動きや税金の使われ方にしっかりと目を向けていきたい。